

校長室より ～「新・山吹の風」 No.28 R7.3.21 ～

あたたかな風が吹き、蝶が花から花へと軽やかに蜜を求めています。『古今集』に「散りぬれば後はあくたになる花を思ひも知らずまどふ蝶かな」（僧正遍昭）とありますように、古来からその優美に舞う姿が愛でられてきました。紋白蝶や紋黄蝶が春の到来を言祝いでいるかのようです。

あおあおと空を残して蝶別れ 大野林火

さて、本日は終業式でした。この一年間の努力がひとつ実ったこととなります。楽しかったこと、悩んだこと、色々なことがあったと思いますが、それらを乗り越えて今があるのだと思って下さい。このような節目に際し、己を振り返り、周りの人達に感謝の念を新たにすることは大切なことです。その心を言葉にして、上手に伝えていきましょう。前向きな言葉に満たされると皆嬉しく幸せになります。そしてまた新たな一歩を踏み出していきましょう。（了）

初蝶の膝の高さにはばたけり 幸恵

